

「在庫データ中継サービス」本稼働

書店180店舗の在庫D提供

インターネットテクノスフィアはこのほど、書店の在庫情報を出版社と共有する「在庫データ中継サービス」を本格的に稼働。出版社への促進に本腰を入れ始めた。書店3法人・約180店舗の店頭在庫データを提供することで、出版社は書店に売れ筋商品などの欠本補充提案ができる。販売機会ロスをなくして増売に繋げる。学研プラスとの実証実験を終えたインターネットテクノスフィアは今後、1000店舗を目標に参加書店を拡大し、汎用サービス化して他の出版社にも利用を呼びかけていく。

販売機会の逸失防ぐ

会員出版社56社

インターネットテクノスフィアは、書店のPOS販売データを中継するサービス「HI-NET」を30年以上にわたり展開。会員出版社が日次で約3000店舗、月次で約5000店舗の販売実績を確認できる。

また、同社ではウェブ受発注サービス「Bookインタラクティブ」を通じて、書店のオンライン

注文を中継するなど、出版社と書店の情流を担う。

会員出版社は現在、56社。書店営業が制約されるコロナ禍、この1年余で会員社は約1.5倍に拡大している。

「今後、コロナが収束しても、以前のような状況には戻らないのでは」という業界関係者の声が高まるなか、書店棚のメンテナンスを懸念する出版社は多い。「在庫デー

タ中継サービス」は、「出版営業DX」の一つとして開発された。

出版社が今後、書店訪問できなくても、店頭状況を把握して、「イチ押しの新刊」や「売れ筋」「定番商品」などの欠本状況が分かり、追加・補充を提案できる基盤をつくった。

個別出版社に在庫データを開示する書店は、紀伊國屋書店、明屋書店、WAYの3法人。今後、

主要チェーン書店も参画する予定があるという。

学研プラスは昨年末から同サービスのテストを開始。今年3月から明屋書店9店舗の在庫情報をもとに追加・補充提案を始めた。同5月には全81



河村 副部長

店舗に拡大している。明屋書店が提供する商品データは、学研プラスが発売する学参、児童書、

実用書、学校の先生向けの本、など全ジャンル。ダイヤモンド・ビッグ社から移管された「地球の歩き方」も対象にしている。とくに学参・ドリル分野では、季節ごとに変化する全国の販売動向と書店在庫を照らし合わせて、きめ細かく作業している。

出版事業部の河村達哉副部長は、「その売上効果は、在庫を入れ替えてから数カ月後に出てくるものです。いまは2学期に向けた半歩先の品揃えを考えています」と話す。学研グループの文理についても、同サービスを導入するか検討中という。

なお、出版社が負担する費用は流通量に応じて要相談。出版社が利用し

やすい価格体系を整備する

問合せはメール＝pos-sales@intage.com、インターネットテクノスフィアの田中明生氏まで。
(関連記事は別掲)

